

震災支援ニュース

発行日

2011年7月 27日

災害対策本部事務局
(機関組織運営部)

発行

1、かき棚復興支援と炊き出しのため、36人が南三陸町へ行きました。

京都生協職員ボランティアが、カキ棚復活と炊き出しのため、宮城県南三陸町へ向かいました。

今回は正規、パート、アルバイト職員とその家族、京都生協理事や取引業者様など総勢36名のボランティアが参加。

まず、炊き出しの用具等を積んだ先発隊のトラックが7月22日午前5:30京都を出発。

22日金曜日午後8:30

その後、金曜日の勤務を終えた職員が集合し出発式を行ない、本部職員に見送られてバスで宮城県へ向かいました。

今回の支援活動を行うボランティアバスは、

金曜日夜出発(車中泊)

⇒土曜日支援活動し出発(車中泊)

⇒日曜日朝京都へ帰着

という車中2泊のスケジュールでした。
(先発隊は2日間テント泊)



出発前の記念撮影。



23日土曜日午前8時

約12時間をかけて、南三陸町の漁港へバスは到着。

台風の余波もあり、霧雨の降るお天気。気温約20度、半そでだとかなり寒いくらいでした。

※左の写真は、到着時の記念撮影。この時点ではまだみんな元気。

午前8時30分

ボランティアは炊き出しグループと土のう作りグループに分かれて支援を開始しました。



土のう作りグループは砂利山を崩しながら、土のう作りを開始。低い気温が作業にとっては好都合だったとのこと。



たくさんのメンバーで行くと砂利山もどんどんなくなりました。



炊き出しグループは袖浜共同かき処理場で炭火をおこしての焼肉の準備。
※写真は、炭に火がつかず苦戦中のようす。



※写真は炭をあおいでがんばって火をおこす職員。このあと100人分の焼肉を行いました。

正午

袖浜漁港の共同かき処理場での炊き出しのようす。地元の皆さんもバーベキューに来てくれました。焼肉が間に合わずてんてこ舞い。



炊き出しのお米は、丹後飼料米生産者の吉岡さんからの提供。吉岡さんは今回のみやぎ支援にも参加いただきました。

午後 1時

お昼の炊き出し後は、再度土のう作業。炊き出しメンバーも参加して一気に土のうを作り上げました。



←1袋60kg(!)の土のうに計700袋分詰めました。予想外の早さで完了です！

土のう作業終了後は魚市場の後片付けも手伝いました。↓



午後 4時



←漁連さんとみやぎ生協さんと一緒にカレー食交流会を行いました。

南山城村の子どもたちが折った折鶴や店舗から届いた組合員さんのメッセージを、みやぎ生協生活文化部の和賀さんへお渡ししました。(写真右は早船理事)→



南三陸町を午後5時45分に出発。翌日日曜日午前 8時に京都へ、全員元気に戻ってきました。



←現地はまだこんな状況です。被災したピアノがそのまま、海岸にはもつれた漁業用の網が残っています。

東日本大震災復興支援 京都生協ボランティアは今後も被災地の復興支援に取り組みます。